

洛友会会報

京都市左京区田中大振町49
〒606-8202
075-701-3210

電工業界から

配電工事の来し方とこれから――

関西支部長　皆川　長也（昭35年卒）



電気工事業界からはじめての支
部長と云うことで従来の巻頭の記
事とは大きく異なる内容とはなり
ますが電力のいま、で、設備建
設を通じて支えてきた一員がいる
と云う御認識をお願いしたい。

私も電力供給、特に配電の世界

で30年の後、電工會社に身を転じ
早や10年を経過した。こちらへ來
て何といつても熱い思いがいまだ
に残るのはあの阪神淡路大震災の
時の配電線の復旧工事。一週間で、
管内各地からきた応援の手で配電

1. 労働力（工事力）の確保
電力が各地の事業者が統合され
てゆき、昭和17年に9配電会社体
制となりさらに発送配電一貫体制
の9電力会社体制となつてゆくな
かで、配電工事会社も各地域のも
と9電力会社体制となり、関西は
の戦後復興めざましく、工業化へ
の進展は各種産業の発展いちぢる
ゆくかが課題で施工技術の開発が
不可欠であった。電気がゆきわた
つてゆくと、止めて作業すること
がむつかしくなる。そこで活線の
まま行うこととなる。一つ間違え
ば危険もある。このような作業
をこなせる技能を前述の学園で付
与し、そのうえで技能資格制度を

早く電気をお客様に送ると云う使
命感に頭の下がる思いがした。こ
のような集団を如何にして養成し
てきたか、又現今経済状況の下、
電力業界の変化に直面してこれか
らのことも含めて記してみたい。

インフラを立てなおした。一刻も
早く電気をお客様に送ると云う使
命感に頭の下がる思いがした。こ
のように頭の下がる思いがした。こ
のようになつたが、なんと云つても
架空配電線が主体で発展してきた。
配電は支持物、電線、柱上変圧器、
メーター等主機材を多種の付属材料
でもつて結合構成し、主として道路
上に、各お客様の家屋へと直結して
建設され、毎日多量の工事を完了し
てゆく必要があった。

仕事を如何に能率よく仕上げて
ゆくかが課題で施工技術の開発が
不可欠であった。電気がゆきわた
つてゆくと、止めて作業すること
がむつかしくなる。そこで活線の
まま行うこととなる。一つ間違え
ば危険もある。このような作業
をこなせる技能を前述の学園で付
与し、そのうえで技能資格制度を

力五千人を確保、維持してきた。
沖縄からも若者がやってきた。
しかし、この時も誰でもと云うこ
とではなく、良質の電工をそろえる
為、適正の検査を実施、又学園を設
け、技能を付与すると共に工事に対
する使命感を醸成し、現場へ送り出
していった。工事最盛期を含め工事

し、クリーンなエネルギー・電力
利用が急激に高まり、配電網が
津々浦々に建設されていった。こ
のようななかで配電々工の確保が
まゝならず、全国に出向いて必至
になつて労働力の確保に努めた。
沖縄からも若者がやってきた。
しかし、この時も誰でもと云うこ
とではなく、良質の電工をそろえる
為、適正の検査を実施、又学園を設
け、技能を付与すると共に工事に対
する使命感を醸成し、現場へ送り出
していった。工事最盛期を含め工事

施工品質確保、安全作業の定着化
をはかつてている。

取り入れ、検定・認定して、バラ
ンスのとれたグループ作業班を作
っている。これにより、能率向上、
津々浦々に建設されていった。こ
のようなかで配電々工の確保が
まゝならず、全国に出向いて必至
になつて労働力の確保に努めた。
沖縄からも若者がやってきた。
しかし、この時も誰でもと云うこ
とではなく、良質の電工をそろえる
為、適正の検査を実施、又学園を設
け、技能を付与すると共に工事に対
する使命感を醸成し、現場へ送り出
していった。工事最盛期を含め工事

施工品質確保、安全作業の定着化
をはかつてている。

最近でこそ、お客様を停電させ
ず、線路を止めて行う無停電作業
を行なうが、その前段工事に活線作
業が必ずあり又活線近接作業もあ
る。最近は事故も激減しており、
全作業員の安全意識の定着化には
うれしいかぎりである。

3. 工事への機械化・機動化の導入
配電工事は多種・多量であり、
これらを能率よく行う為にはマン
パワーのみでは限界があり、数多
く投入しても良とはしない。この
為機械工具の開発投入はもちろ
ん、なかでも機動力の適用は大き
な効果をもたらした。支持物の為
の穴掘り車、建柱車、柱上作業の
高層車、架線の為の架線車等、よ
くお見かけにもなると思うがその
効果大なるものであった。これら
により五千人体制でピーク時期も
対応できただと思つてている。

4. 作業安全
配電工事は道路上作業、柱上作
業、活線作業等環境のそれぞれの
影響の下実施するので安全は全般
にわたつて確保してゆかねばなら
ない。交通灾害、墜落灾害、感電
災害の防止は永遠の課題である。
なかでも感電事故はあつてはな

いことであり、設備の為の防
具、作業員の保護具の充実に努め
てきた。当然のことながら技能の
付与にあつては安全作業をベー
スとした。

即ち電力設備投資の減少は特に
配電工事の体制を直撃し、体制の
縮小のやむなさに至つた。

我々の現場の多くの仲間が去つ
ていった。五千人体制が三千人強
体制と今やなつてゐる。このなか
で再編すべく今や必至になつて模

索している。量的大小は別として必ずや我々のゆく道は続くと考えている。

今まで少々駄弁を効してきたくらいはあるが、お許しを願い、洛友会諸兄には電力を現場で支え、お客様に電気を通じて快適な生活を支えてきた仲間がいることをお知り頂きエールを送つてほしい。

皆様のご発展を祈念して終わらせて頂きます。

続桂キャンパスだより

電子物性工学専攻

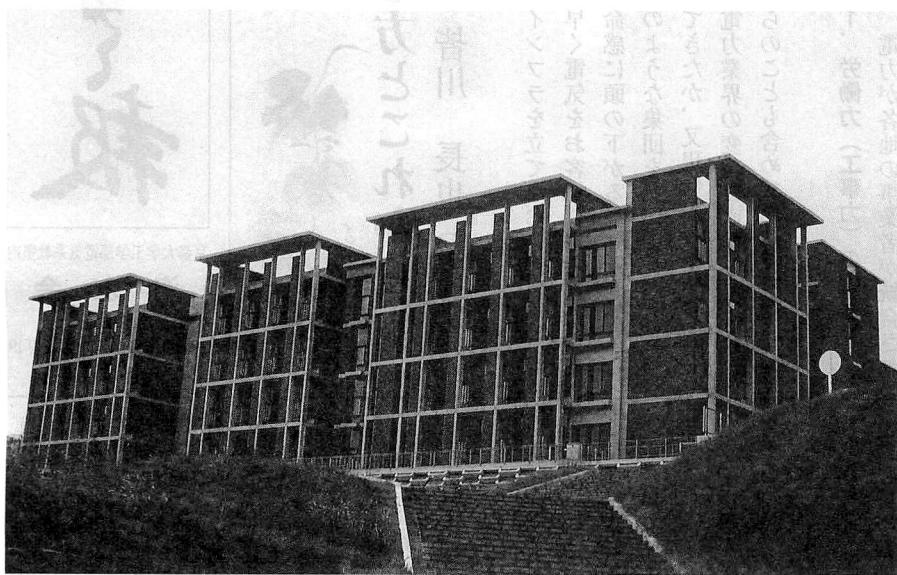
石川 順三（昭和43年卒）

前回の桂キャンパスだよりでは、電気系教室大院の桂キャン

パス移転の概要をお伝えしました。その後移転計画は順調に進んでおり、電気工学専攻と電子物性工学専攻の大院（現在は大学重

点化に伴い教官は大院に所属していますので、研究室はすべて桂キャンパスに移ることになります。引っ越しが長期間に亘るのは、精密な実験装置の移設に長い時間を要するためです。電

気系の建物（総合研究棟Ⅱ）は、現在、写真（8月24日撮影）のよ



ほぼ完成した桂キャンパスの総合研究棟（電気系）建物

うにほぼ完成しています。桂キャンパスには、ISO14001認証を取得して環境に配慮したキャンパス作りを目指すことになります。また、桂キャンパスには、産官学の共同研究を積極的に推進するため桂インテックセンターが設置され、その建物も今回同時に完成します。

桂キャンパスに移ることにより従来と大きく変化することは、事態は変わらず、効率のよい体制が

務体制が変わることと、学部と大學院の講義が別々のキャンパスで行われることです。

桂キャンパスでは電気系事務室

まで統一されました。電気系教室だけの仕事をしてもらつてきた事務室に長い間慣れ親しんでいた私たち教官にとつては、かなりのカルチャーショックになります。

もう一つの大きな変化は、学部

教育は吉田キャンパスで引き続き行われ、大院教育は桂キャンパスになることです。教官の居室は当然桂キャンパスになりますから、学部の講義の度に吉田キャンパスまで出てこなければなりません。講義のためには往復2時間半がロスになりますが、このロスをできるだけ少なくするためにカリキュラムをかなり変える必要ができました。例えば、今まで木、金と二日に亘って行っていた学生実験を一日に纏めたり、週に複数の講義を持つ教官には同じ日に講義ができるよう配慮するなどです。学部教育が吉田キャンパスで引き続き行われるため、電気系の講義室、学生実験室、各研究室当たり小部屋一室程度が吉田キャンパスに残ります。現在の電気系建物は耐震補強をした後、電気系、土木系、建築系の学部教育に使用されることになっています。

今日まで続いてきました。しかし、桂キャンパスでは、工学研究科の電気系と化学系の合同事務室が設置されることになりました。電気

系教室だけの仕事をしてもらつて

きた事務室に長い間慣れ親しんでいた私たち教官にとつては、かな

りのカルチャーショックになります。

私が、電気系教室（電子工学科）

を卒業して早くも25年です。その間、自分自身の一見平凡ではあるが、若干変わった歩みを自分自身振り返つてみたいと思います。電子工学科（板谷研究室）卒業後、その当時約半数の人間が進んだようにそのまま大学院（修士課程）に進み、当初の予定では就職して企業戦士となるはずであった。しかし、研究室で核融合に関する研究を行っているうちに、当時名古屋大学プラズマ研究所（現在核融合科学研究所）とかかわりを持つようになり、周囲の意見を全く無視してプラズマ研の大学院（博士課程）への進学の道を選んだ。私自身、実験は苦手・コンピュータにもあまりかかり合ったくないとの理由から、理論の道を選んだつもりであったが、理論解析だけでは結果が見えないという事もあり、いつの間にやら数值解析・シミュレーションの道へと進む結果となつた。幸いにもプラズマ研の助手としてそのまま採用され、いわゆる博士就職浪人の道を歩まずに済んでいる。核融合科学研究所が土岐に全面移転するとい

学部卒業後25年の力オース的遍歴

野村 保之（昭52年卒）

会員寄稿

う時期に、福井工業高等専門学校電子情報工学科で教官を募集しているが行つてみる気は無いかとの大先輩からのお誘いに、高専の教育方針等全く白紙状態・また個人的な討論の経験は豊富だが、教壇に立つて学生に講義をした経験も無い状態で、無鉄砲にも福井に赴く事を決断して現在に至つている。その間、京都・名古屋・福井とそれぞれに異なる環境や習慣に戸惑いながらも、結局不自由な独身生活を送つてきていた。(自身の理由は特に主義・主張を持ついるわけでは無く、「まだ早いよ」と言つてはいるうちに「もう遅いよ」になつてしまつただけの單純な理由なのだが)

ところで、福井の地はプラズマ研就職後最初の出張先です。この

ときの出張用務は「原子炉の格納方式の調査」というものであり、

当時建設中であつた高浜原発4号機の建設現場を実地検分したり、稼動中の原子炉の制御室などの見

学をさせて戴いた。小柄な私が、作業服・ヘルメットに長靴を着用させられたのですが、寸法が合わず非常に無様な姿であったのは、

いまだに残念です。その後、高専

専攻科の学生の引率で日本原電敦賀2号機の見学に訪れたときには、見て戴くという開放的な姿勢に時代の流れを感じました。

福井に赴任してさまざまの人達とお話をさせて戴く機会（主に飲

み屋）を持ってきましたが、まづ

はもんじゅの運転のときに不安を

もらす人に概略をお話すると、『そ

う反応に、まずは地元の理解を全

く得ようとしていないのに驚かさ

れました。しかしながら、福井県

の嶺北（北陸トンネルを越えた地

域）の人々は、原発には一般的に

無関心であるとの印象は私だけの

ものであろうか。その後、もんじゅの事故隠し・MOX燃料の不備

JCOの臨界事故など、原子力に

少々関わりを持った私には残念な

事態が続出しています。特に、東

電の原子炉不良箇所を隠したまま

の運転継続は、原子力政策に暗い

影を落とすのではと危惧しております。

さて、表題にも示した通り、学

部卒業後25年あまりの私自身の自

分探しを行つてみようと思いま

す。とはいっても、趣味はと尋ね

られると「読書、特に戦争の歴史

や「ロック・ジャズなどの音楽鑑

賞」としか答えられないでの、主

に仕事の話になつてしまします。

I. 学部・修士時代

（百田弘先生との出会い）

私のその後の道筋をほとんど決

定付けた時期の様に感じられま

す。仕事の内容は、当時の京大へ

リオトロンDを念頭においてステ

ラレータ磁気面の破壊というも

の、いまだカオスという言葉も存

在せず、統計性（ストキヤスティ

シティー）と表現され、この用語

を現在も使用しています。また、

各種核融合燃料に対するプラズマ

パラメータの最適化と言う、全く

核融合プロパーな計算も始めてい

ました。

II. プラズマ研博士課程時代

この時期は、大学院生とはい

てもプラズマ研附属核融合研究企

情報センターに所属していて、企

核融合プラズマの最適化の仕事を

続けながら、当時よく言葉と

して定着し、一時期の流行ともな

ったカオスの論文の動向を横目で

監視していたものです。変わった

ものとして、当時の常識を覆す200

テスラ／秒という超伝導マグネット

の立ち上げ実験に、計測要員と

して駆出された事が挙げられます。

周りに同年代の人間も多く、懐かしく思い出されます。

III. 核融合研究企画情報センター時代（藤家洋一先生との出会い）

さて、就職浪人を味わう事も無

く助手に採用された我が身を待ち

受けていた事態は、核融合炉概念

設計ワーキンググループへの参加

であります。とは言つても途中

参加のため、概念設計の外堀はほ

とんど埋め尽くされ、本丸のプラ

ズマパラメータ決定作業が残され

た重大な課題であつて、整合性の

ある炉設計へと導く苦しみを味わ

きたので、あえて出会いと言います。

葉を使わせて戴こうと思ひます。

ハミルトニア系の保測写像の力

オス、特にその統計的性質の解明

に一心不乱に打ち込んだ時期で

百田先生と行った統計性研究

で、おお慌てで日程を調整し、またブ

定も知らせずにいたら、メールで

宿泊日程を問い合わせてこられて

おりいでよ」と言われそのまま予

約10年後に物になるとは思

いがけない拾い物をしたような気

分でした。この仕事は、福井へ場

所を移してからも継続しており、

後輩も育つてくれているのは喜ば

しい限りです。

V. 理論部門時代

再び百田先生との活動に戻り、

アドバンス核融合の概念設定作業

の一貫としてではあるが、ようや

く本来のプラズマ理論研究に着手

したよう感じられます。磁気的

プラズマ閉じ込め方式の一種であ

る磁場反転配位における安定性の

研究で、博士号を取得したのもこ

の時期です。しかし、油断大敵で

安堵と共にそれまでの仲間が職場

を変わって行くという寂しさから、

最も落ち込んで仕事にならなかつ

た離伏の時代で反省材料です。

V. 核融合科学研究所時代

（市川芳彦先生との出会い）

さて、就職浪人を味わう事も無

く助手に採用された我が身を待ち

受けていた事態は、核融合炉概念

設計ワーキンググループへの参加

であります。とは言つても途中

参加のため、概念設計の外堀はほ

とんど埋め尽くされ、本丸のプラ

ズマパラメータ決定作業が残され

た重大な課題であつて、整合性の

ある炉設計へと導く苦しみを味わ

きたので、あえて出会いと言います。

葉を使わせて戴こうと思ひます。

ハミルトニア系の保測写像の力

オス、特にその統計的性質の解明

に一心不乱に打ち込んだ時期で

百田先生と行った統計性研究

で、おお慌てで日程を調整し、またブ

定も知らせずにいたら、メールで

宿泊日程を問い合わせてこられて

おりいでよ」と言われそのまま予

約10年後に物になるとは思

いがけない拾い物をしたような気

分でした。この仕事は、福井へ場

所を移してからも継続しており、

後輩も育つてくれているのは喜ば

しい限りです。

VI. そして福井高専

福井高専に移つた当初はなにも

かも新鮮な経験ばかりで、特に実

験の指導にはほとんど忘れてか

いた電気系時代の教科書・ノート

類を引っ張り出しては復習に余念

がなかつたものです。現在世の中

の趨勢である少子化・バブル崩壊

の余波を受け、JABEE認定や独立

法人化の叫ばれる中、高専をどの

方向に導けば良いのかが最優先の

課題となつています。また、時代

に合わせたカリキュラムの改定な

どの作業もあり、難問山積みです。

いずれは加齢と共に役割も重く成

らざるを得ない立場である事は、

が、生來の気弱さから声が小さくな

なりがちです。そんな中、先日物

理学会で久しづりに出会つた先輩

に、雑談のつもりで「何かネタは

ない?」と気軽に声をかけたら、

遠ざかっているプラズマの話を真

剣に議論し始め、「名古屋に出張

でおいでよ」と言われそのまま予

約10年後に物になるとは思

いがけない拾い物をしたような気

分でした。この仕事は、福井へ場

所を移してからも継続しており、

後輩も育つてくれているのは喜ば

しい限りです。

ラズマの分野で新境地を開拓しようかと思う日々を過ごす今日この頃です。

このように、いろいろな作業に携わってきたため、「専門は何ですか?」という質問や特に高専では「何に役立つのですか?」といった質問が最も返答に困るものです。

最後になりましたが、体調不良により飲酒を止め、ほぼ3年を迎えるとしています。一方、健康にもつとも悪いとされる喫煙の方は、止めるなどというけしからぬ考えを持った事はいちども有りません。世間一般的には、酒席での喫煙マナーの低下には嘆かわしいものがあるとともに、アルコールを受け付けない者に対する冷ややかな視線も気になる現状を実感しつつ、徒然なるままに書き進めたカオス的な文章を終わる事とさせて戴きます。

改革と希望

藤川 智（昭54年卒）

NHK大河ドラマ「利家とまつ」も好評のうちに放映されている。ドラマの中で「本能寺の変」の場面も描かれていた。さて、「織田信長は天正10年6月1日に本能寺で暗殺されたが、その日の月齢はどうだったか。」こんな質問をさ

れたら皆さんは答えられるでしょうか。おそらく年配の方には簡単な問題なのでは。私自身、愛読書の「逆説の日本史」（井沢元彦著）で回答を教えられるまでは知らなかつた一人である。昔の暦（今まで太陰暦を使っている国もあるようですが）は月の動きを基本にした太陰暦であった。すなわち、毎月のはじめの一月（ついたち）は、必ず新月であった。信長は闇夜に暗殺されたわけである。毎月を三十日とする、一年は十二ヶ月で360日で、毎年、太陽暦との誤差ができる。このため、何年かおきに閏月なるものがあつたそうである。

もう一つ質問。「前田利家の賀百万石、さて、一石という単位はどこからきてるのか。」一石は十斗、一斗は十升、一升は十合、お米が主食の人が一日に食する平均的な量は一日三合、一年で約千合となる。千合、すなわち一石とは人一人が一年間に食するお米の量。また一石のお米の量が取れる田んぼの広さを一反とした。一反は約三百坪であるから、一坪は約三合、すなわち一日に食べるお米が収穫できる広さとなる。このため、農業技術の進歩により、江戸時代の一坪は戦国時代の一坪よりも大きい。百万石というこの

ことは、百万人の食する米が収穫できた、ということになる。江戸時代の石高を合計すると人口もわかるということになる。

社会科の授業ではなかなかこういったことは教えてくれない。授業でやれば生徒の興味ももつとわくのではと思う。このような暦とか単位などに限らず、日本古来のもの、あるいは大陸から伝わりそれに改良を加えていったものなど、各分野で昔からわが国に残っているものには、人間の生活に直結しており、手作りの知恵を感じられ感心させられるものも多い。

世界が活動の舞台となる現代では、暦や度量衡は世界的に統一されないと不便である。一方、最近の傾向として、国際化の名のもと、いろいろな分野で、最初から歐米のシステムを是としての改革がなされようとしていることは、少し不満もあり、不安も感じる。日本独自の文化、システムのいいところもあるだろう。無味乾燥な弱肉強食の世界に突っ走るだけで本当によいのか。横文字を使いすぎたり、生産の伴わないペー

ト取引のシステムをやら作つて物事を複雑にしたり、と疑問な点も多々ある。参考にしてよいものとそうでないものの選別を誤らないようにする必要があるので

罪、犯罪はいつの時代にもあるものではあるが、犯罪の性質が異なつてきているような気がする。

社会科の授業ではなかなかこういったことは教えてくれない。授業でやれば生徒の興味ももつとわくのではと思う。このような暦とか単位などに限らず、日本古来のもの、あるいは大陸から伝わりそれに改良を加えていったものなど、各分野で昔からわが国に残っているものには、人間の生活に直結しており、手作りの知恵を感じられ感心させられるものも多い。

世界が活動の舞台となる現代では、暦や度量衡は世界的に統一されないと不便である。一方、最近の傾向として、国際化の名のもと、いろいろな分野で、最初から歐米のシステムを是としての改革がなされようとしていることは、少し不満もあり、不安も感じる。日本独自の文化、システムのいいところもあるだろう。無味乾燥な弱肉強食の世界に突っ走るだけで本当によいのか。横文字を使いすぎたり、生産の伴わないペー

ト取引のシステムをやら作つて物事を複雑にしたり、と疑問な点も多々ある。参考にしてよいものとそうでないものの選別を誤らないようにする必要があるので

私は今春、転勤で北海道札幌市に引っ越しました。前任地は「北海道のへそ」富良野市で、そこで3年間生活しております。富良野といえば、皆様もご存知のとおり、倉本聰脚本のテレビドラマ「北の国から」で一躍注目を浴び、現在では多くの観光客が足を運ぶ北海道でも有数の観光地となっております。富良野の観光スポットなどは観光ガイドに詳しく書いてあります。富良野の観光スポットなどは観光ガイドに詳しく書いてあります。富良野の生活をご存知の方は少ないと想いますが、この場をお借りして紹介してみたいと思います。

富良野での3年間、私は屋外で作業することが多く、色々な経験をしてきました。富良野は盆地ということもあり夏は30℃を越える一方、冬になると一転して氷点下30℃を下回るといった感じで、寒暖差が激しく、本州では考えられない事がたくさんあります。

たとえば真冬の氷点下30℃の日に富良野では困る。が、欧米のシステムこそ正しいという思想やいたずらに将来に不安ばかり増す改革で否定するものではもちろんない。長い間の腰がたまり、本当に汗する人に富が配分されないような社会では困る。が、欧米のシステムこそ正しいという思想やいたずらに将来に不安ばかり増す改革では、改革する前につぶれてしまいそうな気がしないでもない。改革は将来に希望の持てる改革でなければならぬ。

「北の国から」の生活とは？ 石坂 裕昭（平5年卒）

を開けてドライヤー等を使い気長にエンジンを暖めて、ようやく出勤といった光景が見られます。

また、富良野にきて「タコ帽子」なるものを買うように勧められました。タコ帽子とは何?と疑問に思う方も多いと思いますが、これは昔某プロレスラーが使っていたマスクのようなもので、目と口の部分だけが開いていて顔をすっぽりと覆う防寒用の帽子です(正式名称はわかりませんが)。北国の屋外作業には必需品で、私もずいぶんお世話になりました。

もう一つ仕事上で忘れられない作業としては、「冠雪落とし」があります。これは読んで字のごとく「電柱・電線に冠った雪を落とす作業」であります。文字ではイメージが湧かないかも知れませんが、実際は大変な重労働であります。車の入れない山の中を、カンジキを履いて延々と歩き、その後電柱に昇り長さ2mほどの専用の棒で雪の塊を突つつきながら落としていくわけですが、2~3回繰り返すと息があがるほどです。特に春先の雪は水分が多く硬くなり落とすのは一苦労です。

北の雄大な大地にあこがれ、自らのキャリアを捨て移住してくる人々が年々増えています(この文書を読まれている方々の中にも将来計画されている方がいるか

も?)。水を差すわけではありませんが、観光ガイドに載っていると思う方も多いと思いますが、これは昔某プロレスラーが使っていたマスクのようなもので、目と口の部分だけが開いていて顔をすっぽりと覆う防寒用の帽子です(正式名称はわかりませんが)。北海道は今回紹介した厳しい顔も持つております。北海道に来られた際には、このような厳しい環境についても思いを馳せてみては如何でしょうか?

「技術と心」

木谷 博昭(平7年卒)

人間の作り出したもの、手を加えたものにはどうしても人間の手におえない部分が存在する。一つの例をパソコンにとつてみると、普段調子よく動くパソコンであっても、忙しいときに限つてよくハングアップする。忙しいがために、パソコンに許容能力以上の負荷をかけすぎるがためであるが、多忙な人間にはそれを理解する余裕がないので、パソコンにあたる。技術の集結したコンピュータとはいえる、人間の作り出したものである。完全であるはずと思いつくのが間違っている。今では、パソコンがへそを曲げないように、かわいがつて使っているつもりだが、それでもよくハングアップする。別の人見方をすると、パソコンをコントロールし切れない自分の鍛錬を考えると、人間の手におえないところからみると、人間の手におえないといふことなど何一つできな

いうよりは、その技術の作り手の意図を理解せずに使っていることが問題であると考えられる。

また、人間がこれまで生活レベルの向上とともに手を加えてきた

ものの、それに数年から十数年遅れて、環境的な問題が表面化してくる。一昔前の大気汚染、水質汚濁などをはじめ、最近では地球温暖化、ヒートアイランド現象、環境ホルモン、PCBなど枚挙にいとまがない。寡聞にして詳しくは知らないが、例えば地球温暖化は大型の台風を増殖させる要因ともなるらしい。最近そのような地球温

かの弊害を引き起こすようであり、ネットの普及もそれに違わず著しいモラルの低下を引き起こす要因となっている。情報の発信がマスコミに集中していた時代では淘汰されていた道徳に叛くような主張が、目の目を見るようになってしまったのが大きな要因だと考えられる。表現の自由だの自己責任だの叫ばれているが、例えば児童が自分で責任をとつて、閲覧できる情報を選択できるだろうか。銃規制が緩い彼の国での実状などを考へると自己責任にも限界がある。システム・制度サイドで規制が強化されない限り、また、将来を背負つて立つ児童への道徳的な教育を強化しない限り、モラルのさらなる低下は不可避でありまた

は小さいのである。科学技術が自然の摂理をベースに成り立つていてことを認識し、母なる自然をいたわるつつ、技術を進歩させていくことが肝要であるように思われる。

また、別の例を挙げると、冷戦が終結して急速に世界中に広まったwwwも人智の成果である。ネットが普及したことにより、情報が共有化され、個人からでも情報を発信することが容易となつた。

技術革新とはどういうわけか何かの弊害を引き起こすようであり、ネットの普及もそれに違わず著しいモラルの低下を引き起こす要因となっている。情報の発信がマスコミに集中していた時代では淘汰されていた道徳に叛くような主張が、目の目を見るようになってしまったのが大きな要因だと考えられる。表現の自由だの自己責任だの叫ばれているが、例えば児童が自分で責任をとつて、閲覧できる情報を選択できるだろうか。銃規制が緩い彼の国での実状などを考へると自己責任にも限界がある。システム・制度サイドで規制が強化されない限り、また、将来を背負つて立つ児童への道徳的な教育を強化しない限り、モラルのさらなる低下は不可避でありまた

は、急速に技術が発展して世の中は便利になると、人間は技術の作
り手の意図や、その技術のもたらす影響を理解する間もなく、その技術を持たず利用する事が問題であると思われる。しかも、モラルの低下は技術の進歩と同じく早い早く、人間の知識習得・倫理観の醸成は通例それより大きくなつた。

私も一児の父になつて1年半が過ぎる。せめて、次の世代、その次の世代には、大きな禍根を残さたくない。技術革新が自然破壊やモラルの低下を引き起こさぬよう、そして、自然が「自ずと然るべきかたち」に少しでも近づけるよう配慮し、一人の技術屋かつ技術ユーチャーとして後世にもそのことを伝えていきたい。

最後に、先日電気学会の部門大会が開催され、本大学の有福孝岳教授が「人間と自然との呼応—自己と万法—」との題目で特別講演されたのを拝聴する機会があつた。学会の性質と講演の内容が若干不釣合にもとれる内容にとまどつたが、仏教の觀点から見て技术の進歩にある種の警鐘を鳴らしておられたように思い、乱筆ながら筆をとつたことを書き添えさせて頂く。

「卒業50周年クラス会」

同窓会だより

平成14年5月13日、「ホテル京阪京都」で、中華料理で夕食会を開いた。参加者は27名（奥様方4名を含む）であった。このクラス会を、近年はほぼ毎年開催している。今年は卒業50周年に当たるのと、例年の夕食会に加えて、翌5月14日に貸切バスで日帰りツアーチャイナを実施した。参加者は19名（奥様方3名を含む）であった。コースは、先ず「比叡山ドライブウェイ」を通つて延暦寺へと向かつた。延暦寺には東塔、西塔、横川の3塔があるが、今回はその中の東塔へ参拝した。学生時代には京都にいながら、案外比叡山まで足を運んだことのない者もおり、また行つたことはあつても、記憶から薄れてしまつたりした者もいた。昼食は、ホテル「ロテル・ド・比叡」で、上等のワインを片手にフランス料理に舌鼓を打つた。昼食を済ませてから庭園美術館「ガーデンミュージアム比叡」を散策した。この美術館は一風変わつた屋外型で、モネ、ルノアール、ゴッホなどのフランス印象派の画家たちが現して展示した、全く新しいタイ

設計によるものである。また、美術館は比叡山頂の「四明ヶ獄」にあり、京都市街や琵琶湖の展望を満喫することができた。

こうして、楽しいバスツアーによる一時を終えて無事京都駅へと帰り、来年の再会を約束して散会した。

なお今般、「卒業50周年記念誌」を発刊したので、それを事務局へお送りした。

橋達郎教授にご出席頂き、支部から大野支部長はじめ16名が参加しました。大野支部長の挨拶の後、議事に入りました。先ず支部役員については、支部長以下現役員が高齢化しているので昭和38年卒増田宗敏氏が新たに副支部長に推薦された他、現役員は全員留任とし、可決されました。

次に、平成13年度事業および決算報告並びに平成14年度事業計画と予算案が一括してはかられ、満場一致可決されました。中部支部では役員の高齢化と若い人の参加が少ないので悩みの種でした。本日は大野支部長のお骨折りで最大会員を擁する中電から若手5人の参加を得て、会は大いに盛り上がりました。

事業計画は別記「平成14年度事業計画」の通りです。お誘い合わせの上多数ご参加をお待ちしています。家族同伴秋の例会は今年は二番煎じになりますが近場の野外民族博物館「リトルワールド」とアサヒビール名古屋工場見学としました。リトルワールドは昭和58年オープンの時、故本多支部長も参加されて行つたが当時は本館だけで野外施設は少なかつた。いまは随分充実しました。（後の懇談会で昭和48年卒武藤さんから掲示所が近いので土肥市の「核融合

科学研究所」の見学は如何ですかとのお話があり、検討する事にしました。総会について本部の近藤会長から洛友会の現況についてご説明頂きました。今年は洛友会創立50周年になりますがまだ行事は決まっていません。IT化について関東、関西支部がたいへんりっぱなホームページを開設されたが、洛友会の活動は支部が主体、本部は名簿と会報だけですからEメールだけは連絡用に開設しました。番号は会報を見てくださいとご説明がありました。

次に教室の高橋先生からの教室の現況について、厳しい経済状況だが卒業生の就職は全く問題がないこと、桂キャンパス移転について其の概況をご説明いたしました。

総会終了後、引き続き懇親会になりました。昭和8年卒の大先輩端さんのご発声による乾杯に始まり、先生方との歓談、久しぶりの先輩・友人とビールで喉を潤しながらの談笑と、恒例の「近況報告」には先生方の自己紹介も交え、予定時間は瞬く間に過ぎてしましました。最後に一昨年から校歌代わりに歌う事になつた「琵琶湖就航の歌」を全員で歌つて懇親会を締めくくりました。

| |
|--|
| <p>中部支部</p> <p>平成14年度事業計画</p> |
| <p>1 懇親囲碁大会</p> <p>日時 8月31日（土）</p> <p>場所 名古屋通信ビル</p> |
| <p>2 懇親ゴルフ大会</p> <p>日時 10月6日（日）</p> <p>場所 豊田パブリックゴルフ場</p> |
| <p>3 家族同伴 秋の例会</p> <p>日時 10月19日（土）</p> <p>名鉄メルサ西口 9時00分出発</p> <p>行き先 アサヒビール名古屋工場と野外民族博物館</p> <p>「リトルワールド」</p> <p>（＊核融合科学研究の追加を検討する）</p> |
| <p>石川進（昭26年卒）記</p> |

中部支部総会報告

支部だより

和田壽太郎
(昭10年卒)記

お詫びと訂正
会報197号（7月号）「同窓会だより」
で昭十会70周年記念の記事の中で
参加者名「中堀同夫人」の次に「林
同夫人」と記載すべきところ脱落し
ておりました。お詫びして訂正いた
します。

お詫びと訂正

なお今般、卒業50周年記念誌を発刊したので、それを事務局お送りした。

こうして、楽しいバスツアーヨー
る一時を終えて無事京都駅へ、
帰り、来年の再会を約束して散々
した。

ブの庭園美術館である。そして庭園はフランス人のデザイナーによるものである。また、美術館は比叡山頂の「四明ヶ獄」にあるので、京都市街や琵琶湖の景観を満喫することができた。

中部支部 平成14年度事業計画

| | |
|--------------|----------|
| 日時 | 8月31日(土) |
| 場所 | 名古屋通信ビル |
| N S D 社友会サロン | |
| 懇親ゴルフ大会 | |

洛友会東京支部

將棋會活動報生

幹事 三好 良一（昭30年卒）
伊藤 貞男（昭32年卒）

行き先 アサヒビル名古屋工場と野外民族博物館「リトルワールド」
(*核融合科学研究の追加を検討する)

が、高齢者のため出席回数が減っています。したがって年6回の参加者延べ数は計25人程度です。一方、入会希望の若い会員も毎年2～3名ありますので、例会への継続的参加を希望しています。

例会はまず全員で学士会館食堂の昼食を取ります。その時は将棋を離れて会員相互の消息や世相に関する意見交換をして楽しいひと

せています。駒落を採用しているため、この頃は成績による受賞選考はしております。

となるのが実際の参加者数の増大を妨げている原因かも知りません。しかし、将棋は頭の体操になります。とても良いスポーツと考えています。どなたでも参加出来ます。皆様の参加をお待ちしています。

麻雀会の活動

本麻雀会には3つの特徴があります。第一の特徴は、いわゆる風速がゼロだということです。これは発足時からの伝統で、他の趣味の会と同様に、会員間の交流と親睦を目的としているからです。

その代わり、第二の特徴として、順位賞に加えて、大波賞・小波賞・原点賞・敢闘賞・役満賞・特別賞など、各種の賞を用意していくます。たとえ順位賞が難しくなつ

さらに、第三の特徴として、ゲームを楽しめるようにというわけです。

1ムに熱中するだけでなく、最終局の前に夕食をとりながら、会員の動向・近況報告・趣味の話などの会話を楽しんでいます。例えば、ご自宅の庭に現れためずらしい動物を写真と共に紹介いただいた時

参加者は昭和13年卒の平野彰先
究所近く、緑豊かな砧公園に隣接
する、東京厚生年金スポーツセン
ターのテニスコートで毎月1回
祝日・土・日の日にきつかり2時
間プレイします。

輩を頭に毎回8人から14名くらい。雨や強風でやむを得ず中止とするケースを除き、真夏・真冬も休まず開催し、したがって、年間

に先輩・後輩あるいは同級生同士の交歓が進み、あつという間に再会を期してお開きとなります。私は20年ほど前、初めてテニス会なるものに参加しようとコートにたどり着いたところ、見知らぬ、大先輩らしき年輩の人々が大勢集まつてらしたので、その威容に圧倒され、後ずさりして帰つてきたことがあります。



洛謡会のこと・第2弾

武田 学
(昭41年卒)
記

中に潜む意地悪な気持ちを十二分に発散できる、といったところでしようか。

1回が昭和44年11月8日目黒区八雲の日本原子力発電八雲クラブで開催されました。現在では、第113回が2019年11月9日東京支会にて開催されました。

す。洛友会のことは、洛友会会報
第117号（昭和56年10月10日付け）

